松田麻美子の超健康革命（Super Health Revolution）

SHR NEWSLETTER ニュースレター No.52

（2012年４月号）

［発　行］©超健康革命の会
［事務局］東京都品川区大井1-23-7-4F
グスコー出版内　〒140-0014
Tel/Fax 03-3775-4503（13:00～18:00）
E-mail shr-info@natural-hygiene.org

Message from SHR

『The China Study』、カターヴァ賞（食糧安全部門）受賞！
地球環境保護分野の「ノーベル賞」！ 東京・国連大学で授賞式開催

『葬られた「第二のマクガバン報告」』の原書である『The China Study』が2011年度の「カターヴァ（Katerva）賞」に選ばれ、去る３月７日、国連大学本部（東京・青山）に高円宮妃殿下とジョン・ルース駐日米国大使などをお迎えして、その授賞式が行なわれました。

「Katerva」は『フォーブス』誌の前役員でベストセラー作家のテリー・ワグホーン氏によって設立された非営利団体で、その語源は「集団知」を意味するラテン語「Katerva（カテルヴァ）」から来ています。

この組織は、サスティナビリティー（持続可能）を重視した効果的、かつコストのかからない知識やスキル（技能）、テクノロジーなどを世界中から見つけ出し、インターネットを駆使して全世界に広げていく活動を行なっています。

その中から、「効率、ライフスタイル、消費」の面で従来のパラダイムを転換させ、最も地球環境のサスティナビリティーを推進させるのに貢献した革新的なテクノロジーやアイディアに対し、年に一度「カターヴァ賞」が授与されます。

ロイター通信はこの賞を「サスティナビリティー分野のノーベル賞」と呼んでいます。

この賞は、「原料と飼料部門」「エネルギーと電力部門」「人間開発部門」「輸送機関部門」「食糧安全部門」ほか計10部門からそれぞれ選ばれます。

賞の審査は非常に厳しく、50か国およそ500名の有識者、研究者、企業、新しい考えを持つリーダーなどによる１年間にわたる厳正な選考を経て決定されます。

2011年度のカターヴァ賞は、600余りの候補の中から各部門の受賞者が選ばれたそうです。

『The China Study』は「食糧安全部門」での受賞で、「地球環境を守るため、食の選択の面で従来のパラダイムを変え、最もすばらしいアイディアを提供している」という点が評価されました。

授賞式に先立って行なわれた第１回「カターヴァ会議」では、カターヴァ賞受賞者によるプレゼンテーションのほか、「サスティナビリティーにおける改革」というテーマで、地球環境を傷つけない「エネルギー開発、都市開発、ライフスタイル」、さらには「東日本大震災後の復興計画」などについて、活発なディスカッションが行なわれました。

（写真は、受賞作のメッセージを伝える松田先生）

この会議にはキャンベル博士の代理として私が出席しました。キャンベル博士がカリブ海を航海中のクルーズ船上で講演を行なっていて出席できないため、授賞式出席要請のご依頼をいただいたからです。

『The China Study』のプレゼンテーションで私がお話しした「食習慣は、私たちの健康と地球環境に深く関係しており、私たちの命を救う食習慣は、地球環境にとってもやさしい」ということは、参加者の多くに衝撃を与えたようでした。

私にとって、これは意外なことでした。カターヴァ会議の参加者は、環境にやさしい技術開発、ライフスタイル、ビジネススタイルを推進していくことに関心のある人々でしたから、「食習慣が私たちの体と地球に与える影響」については、当然認識しているもの、と思っていたからです。

しかも、出席者の多くは最新情報を英語で自由に読むことのできる外国人だったため、私の驚きはなおさらでした。

ランチタイムには「ぎんざ泥武士」の境眞佐夫シェフによるサスティナブル・ベジタリアン料理をいただきながら、何十人もの方とお話を交わしましたが、「動物性食品は私たちの体と地球の両方を傷つける」ことを知っている人は、一人としていませんでした。

会議後の内輪の夕食会で、「カターヴァ」のスタッフ、受賞者、パネリストのみなさんが注文していた食べ物は動物性食品中心で、野菜はほんのつけ合わせ程度でした。